

えんちょう通信

No.86

令和 4年11月29日

福島市立清水幼稚園

発行者 佐藤 一男

「阿部さん、おいしいりんご ありがとうございます。」



先週の11月25日(金)、阿部久夫さんのりんご畑にみんなでりんご狩りに行きました。清水学習センターの分館を南に曲がり、少し行って久盛院に入る道を真っすぐ行くと、りんご畑が見えてきます。吾妻山は雪で真っ白になっていますが、風もなく、暖かな日差しがりんごに当たって、たくさん真っ赤なりんごが輝いています。りんご畑は下草もきれいに刈ってあって、子どもたちが歩きやすそうです。

阿部久夫さんが、もう畑で待っていて、子どもたちを迎えてくださいました。

阿部さんにご挨拶をして、りんごのとり方を教えてもらいました。「りんごに触ってみて、少しべたべたしたりんごが甘いんだよ。木の下の方よりも、高い所のりんごの方がおいしいから。」と子どもたちがわかるように優しく教えてくださいました。

さっそくりんご狩りを始めました。枝からりんごを自分の手でもいでるのは、ほとんどの子が初めてのようで、大喜びです。りんごに触ってみて、べたべたするりんごを見つけて大喜びの子もいます。友だちにおいしそうなりんごを教えてあげている子もいます。みんなとても楽しそうです。そして、どの子もりんごを3つずつとらせてもらいました。子どもたちは、そのりんごを3つ、ビニル袋に入れて、大事そうに下げて幼稚園に帰ってきました。

夕方、預かり保育に迎えに来たお母さんに、りんご狩りに行ってきたことを話したら、そのお母さんは笑顔で、「私も小さいころ、幼稚園でりんご狩りに行ったことを覚えていますよ。」とおっしゃっていました。経験はずっと残るんだなと思いました。

安齊さんの田んぼでオタマジャクシをとったことや「いい電」に乗って出かけたこと、そして、阿部さんのりんご畑でりんご狩りをしたことなどは、ずっと子どもたちの心に残っていて、この先も子どもたちを支えてくれるのではないのでしょうか。ビニル袋に入った3つのりんごの重さを、子どもたちはずっと忘れなと思います。

帰り道、男の子がリンゴ畑に向かって、「阿部さん、おいしいりんご ありがとうございます。」と何度も言っていました。